

## ひと：村上忠一さん＝ダイバーは救命知識をと訴える

### ◇ 村上忠一（むらかみ・ただかず）さん（84）

例年になく、ダイバーの死亡事故が多発している。

「気になって仕方がないんです。教材を買わせることを主目的にしたもうけ主義で、きちんとした講習をしない業者が多すぎる」

スキューバダイビングの普及で、潜水業者は大忙し。いきおい、講習は最低4日程度は必要なのに1日に短縮し、マニュアル本を事前に送りつけて講習を省略するなど、手抜き講習会が後を絶たない。その結果、水中でのトラブルに対処できないダイバーが続出している、と憤慨する。

水中散歩を楽しむためにも、長年続いている業者で、経験豊かな指導員に学び、講習会には4日ぐらいをかけることを提言する。

ダイバーの世界では大御所的存在。自ら創設し、名誉会長を務める関西潜水連盟は9月で40年目を迎える。現存するアマチュアの潜水連盟では国内最古だ。この間、日本赤十字社救急法指導員として教えたダイバーは5000人を超える。

37歳の時、友人に誘われ、初めて海に潜った際の感動が、ダイバー生活の起点になった。潜水回数は6000回にもなるが、2年前、水中で耳が痛くなり、潜水生活からは引退。海上保安庁などから、水難事故防止への意見を求められることもあり、安全なダイビングのためのご意見番は現役として続ける。【玉置通 夫】

---

#### ■人物略歴

ソウル市生まれ。旧陸軍獣医学学校修了。日本油料検定協会職員の際ら潜水関係の役職を多数歴任。